

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年1月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0270301963
法人名	財団法人 シルバーリハビリテーション協会
事業所名	グループホーム市川
所在地	青森県八戸市大字市川町字南尻引84-1 (電 話)0178-52-7070
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 3人, 非常勤 11人, 常勤換算	14人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費 9,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	シルバー病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い敷地内には、ひとつの玄関を中心に一番町、二番町と2ユニットのホームが建設されており、その外壁は茶系で統一され、モダンな建物となっている。また、ホーム全体がバリアフリーとなっており、やさしさに配慮されている。

車イス使用者の多いホームの居間はきれいに片付いており、居室入り口等の角には、接触しても怪我をしないよう、カバーを掛け安全に配慮している。また、居室の広い窓や天窓からは自然の光が注ぎ、清潔感に溢れた落ち着ける空間となっている。

職員一人ひとりが日常ケアにおける目標を掲げ、年度末には職員会議において見直すなど、より良いケアに向けた取り組みを行っている。さらに、接遇自己チェック表や言葉遣い自己チェック表を作成し、日々のケアを確認しながら、全職員でサービスの質の向上へ向けた取り組みに力を入れている。元気で明るい職員の笑顔は、利用者の笑顔を引き出し、明るく温かいホームとなっている。

ホームでは、訪問看護ステーションとの契約により、週1回の訪問看護を受け入れており、職員は利用者の健康状態を把握して、健康管理に努め、利用者や家族が安心できる、ホームを目指している。

【特に改善が求められる点】

理念は開設当初のものとなっている。管理者は今後、全職員で話し合い、地域の中のホームとして利用者が生活して行けるよう、地域密着型サービスの役割を反映した理念を作成する予定であり、今後の取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を基に全職員で話し合うほか、運営推進会議の意見も参考に、より良いケアに繋げるための改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価や外部評価の意義を理解している。自己評価は管理者が作成した原案を職員が確認・検討しており、その過程でケアの気づきを出してもらったり、職員一人ひとりの意識改革に繋がっている。 外部評価の結果は運営推進会議の意見を参考に全職員で話し合い、より良いケアに繋げるための改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催しており、自己評価や外部評価の結果、ホームの現状を報告し、意見交換等やアドバイスを得ている。また、会議での内容を職員に周知し、今後のケア等について検討している。 運営推進会議には町内会長や民生委員が参加しており、中心街より少し離れているホームと町内を繋ぐ重要な役割を担っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 苦情受付に関する事項を重要事項説明書に記載し、契約時に十分説明している。また、ホーム玄関に意見箱を設置し、意見が出しやすい工夫を行っているほか、面会時や電話連絡時に意見や要望等を拝聴するよう心掛けている。苦情や意見・要望等が出された際は、苦情処理手順に従い対応し、運営推進会議や職員会議で検討して運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、盆踊り等地域の行事に参加することで、交流を図っている。また、町内会長の協力を得て、町内にホームの情報を提供したり、広報誌を配布し、ホームを理解して貰えるよう努めるなど、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。 便り等でボランティアを募り、受け入れているほか、今年度、管理者が認知症サポーター養成講座に参加する予定を立てるなど、地域に貢献できるよう取り組んでいる。

【各領域の取組状況】

領 域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	全職員で話し合って作成したホーム独自の理念は、玄関や事務室に掲示しており、職員は毎日朝礼時に唱和し、気持ちをひとつに日々のケアに取り組んでいる。 理念を実現させるための行動方針を定めるほか、職員個々の目標を掲げるなど、自覚を持って日々のケアを実践している。 全職員で接遇自己チェック表や言葉づかいチェック表を作成し日常においての自分を振り返り、資質の向上に努めている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用者が安心してサービスを利用できるよう、利用者や家族と面談を行って十分に話し合い、思いや希望等の把握に努めている。また、ホームに馴染めるよう、ホーム見学を促したり、家族の協力を得ながら、利用者の不安を取り除くよう努めている。 洗濯物たたみや草取りなど、利用者が得意な事で力を発揮できる場を設けている。また、裁縫等は職員が教えてもらうなど、日々の生活の中で一人ひとりに合った役割を見つけ、共に支えあう関係を築いている。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月毎に見直しを行っているほか、状態の変化や家族からの要望等に応じて、随時見直しを行っている。また、見直しの際には介護記録の再確認や再アセスメントを行っている。さらに、計画の評価を行い、次回の計画作成時に活かしている。 ホームでは利用者が安心して暮らせるよう、訪問看護ステーションと契約し、週1回の訪問看護を受けている。職員は利用者の健康状態等を把握しており、健康管理に努めている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	アセスメントにより利用者一人ひとりの生活歴や特技、希望、力量を把握している。花壇の草取りや金魚の餌やり、食後の片付けや裁縫など、日常生活の中で個々に合った役割や特技を発揮できる場面を作り、利用者の楽しみを促すと共に、自信と達成感が得られるよう支援している。 ホーム玄関は日中は施錠しておらず、また、居室も鍵を設けず開放している。利用者は玄関外のベンチで楽しんだり、居間のソファでテレビを見るなど、職員の目配り気配りで一人ひとりが好きな場所で、自由にゆったりと過ごしている。

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは笑顔のたえない明るく温かな雰囲気の中で利用者様とともに行動し個人の能力を最大限に引き出すことで自信を持っていただけるように『心によりそったケア』を提供します」というホーム独自の理念は、職員全員で話し合い作成しているが、地域密着型サービスの役割を反映させるまでには至っていない。	○	理念は開設当初のものであり、今後全職員で話し合い、地域の中のホームとして入居者が生活していけるよう、地域密着型サービスの役割を反映した理念を作成する予定であり、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はいつでも確認できるよう、玄関や事務室に掲示するほか、職員採用時に説明したり、毎日の朝礼時に全職員で唱和し共有している。また、ミーティング時に、理念に基づいたケアを日々行っているか確認している。さらに、行動方針や職員個々の目標を掲げ、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し、盆踊り等地域の行事に参加することで、交流を図っている。また、町内会長の協力を得て、町内にホームの情報を提供したり、広報誌を配布し、ホームを理解して貰えるよう努めるなど、気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。便り等でボランティアを募り、受け入れているほか、今年度、管理者が認知症サポーター養成講座に参加する予定を立てるなど、地域に貢献できるよう取り組んでいる。外部の方を受け入れる際は、利用者のプライバシー等について説明を行うなど、十分配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議等で自己評価や外部評価の意義を説明し、全職員に周知している。自己評価は管理者が作成した原案を職員会議で検討し、一つひとつ確認しながら完成させている。また、外部評価結果を基に全職員で話し合うほか、運営推進会議の意見を参考にするなど、より良いケアに繋げるための改善に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催している。ホームの日々の取り組みや、自己評価・外部評価結果を報告し、アドバイスや意見交換を行うことで、サービスの質の向上に繋げるよう取り組んでいる。また、町内会長や民生委員が運営推進会議委員になっており、地域とホームを繋ぐ役割を担っている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所に出向いたり、電話で連絡を取るなど、日々のケア等について相談や指導を得ている。また、ホームの実態等を理解してもらうため、広報を配布したり、自己評価・外部評価の結果を報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度の利用者がおり、職員は内部・外部研修を通し、知識の習得に努めている。また、必要に応じて、利用者や家族等に情報提供を行うほか、利用に繋がられるよう支援している。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は日常のケアや言葉遣いに十分配慮するよう、職員に注意を促すほか、ケア場面を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めている。また、職員は内部・外部研修を通じて高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。虐待を発見した場合は即対応できるよう、虐待に関するマニュアルを整備し、全職員が共有している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書や重要事項説明書、パンフレット等を用いて、ホームの理念やケアの方針、取り組み等について十分説明し、理解を得ている。また、契約改訂時や退居時にも十分説明し、家族や利用者が混乱することがないように、配慮している。特に退居時には、利用者の情報提供や介護指導を行ったり、関係機関と連携を図るなど、退居後の生活がスムーズに出来るよう支援している。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの様子や体調、受診の状況を利用者一人ひとりに応じた便りで報告している。また、金銭管理については、収支表に領収書やレシートを添付し、毎月1回家族に送付している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付に関する事項を重要事項説明書に記載し、契約時に十分説明している。また、ホーム玄関に意見箱を設置し、意見が出しやすい工夫を行っているほか、面会時や電話連絡時に意見や要望等を拝聴するよう心掛けている。苦情や意見・要望等が出された際は、苦情処理手順に従って対応し、運営推進会議や職員会議で検討するなど、運営に反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者への影響を考慮し、職員の異動は必要最小限に留めている。また、異動を行う際は利用者へ十分説明し、混乱が起きないように配慮するほか、家族へは面会時に報告している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の資の確保や向上に向けた育成の必要性を十分認識しており、全職員が経験年数や職種等に応じた研修に参加できるよう年間研修計画を作成している。特に専門的資格取得に向けた研修会は、法人本部が中心となり内部研修を開催するなど、法人全体で取り組んでいる。受講後は復命書を作成し、職員会議で伝達研修会を開催しており、日々のケアに活かせるよう、全職員で共有している。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修会等を通して積極的に情報交換を行い、日常ケアの気づきを得たり、職員の育成、サービス向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを利用できるよう、利用者や家族と面談を行って、十分に話し合い、思いや希望等の把握に努めている。また、ホームに馴染めるように、ホーム見学を行ったり、家族の協力を得ながら、利用者の不安を取り除くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや草取りなど、利用者が得意な事で力を発揮できる場を設けている。職員は、利用者に裁縫等を教えてもらうなど、日々の生活の中で一人ひとりに合った役割を見つけ、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との会話や言葉、表情から、思いや希望、好み等を把握するよう努めている。また、家族からの情報収集や日頃のコミュニケーションから得ることのできる気づき等を大切に、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や希望、暮らし方や生活リズム等を把握して、日々のケアの中での気づきや変化等を基に、カンファレンス会議で話し合い、利用者が可能な限りその人らしく暮らし続けることができるよう、一人ひとりに合った計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には実施期間が明示されており、3ヶ月毎に見直しを行っているほか、状態の変化や家族からの要望等に応じて、随時見直しを行っている。また、見直しの際には介護記録の再確認や再アセスメントを行っている。職員は常に利用者の状態の変化や家族の希望を聞き取り、記録に残しているほか、計画の評価を行い次回の計画作成に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約し、週1回看護師が来所しており、利用者の健康状態を観察し、職員との情報共有を行っている。また、緊急時の対応等については、24時間体制で相談ができる体制となっている。利用者の受診支援や外出支援等、法人本部の車両を利用し、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりの受診状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。受診時には、必要に応じて職員が同行し、利用者の状態等についての説明をしている。また、訪問看護ステーションとの情報の共有ができており、協力医療機関や家族等との情報伝達等を円滑に行っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた取り組みを行っており、指針や契約書を作成している。職員は法人内の事例等で勉強会を開催し、問題点や解決策について話し合っている。また、入居時には、利用者や家族からアンケート方式で意向を確認し、終末期に向けた意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員で接遇自己チェック表や言葉遣いチェック表を作成し、日頃の自分を振り返り、資質向上に努めている。職員は個人情報保護法について学習しており、病院受診時に個人ファイルの名前が周りに見えないよう工夫したり、ホーム内ではスタッフルーム内のカーテンで目隠しされた棚に置く等の配慮をしている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の言動を急かすことなく、じっくり話を聞くよう心掛けている。また、利用者の性格や生活のリズムを把握しており、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせ、ゆったりとした生活ができるよう支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握しており、一人ひとりが食事を楽しめるよう、調理方法や盛り付け等を工夫している。また、利用者は個々の体調や意思に応じて、後片付け等を職員と一緒にやっている。職員は、できる範囲で利用者と一緒に食事を取り、食べこぼしや摂取量に気を配りながら、利用者との会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、できる限り利用者の習慣や順番等の希望に応じた支援を行っている。また、入浴時は常に職員が付き添い、羞恥心や負担感に配慮しているほか、入浴を拒否する利用者には、時間をずらして声を掛けたり、清拭や着替え等を行うなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより利用者一人ひとりの生活歴や特技、希望、力量を把握しており、花壇の草取りや金魚の餌やり、食後の片付けや裁縫など、日常生活の中で個々に合った役割や特技が発揮できる場面を作り、利用者の楽しみを促がすと共に、自信と達成感が得られるよう支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内外の散歩やドライブ、ショッピングや地域のお祭りへの参加など、利用者の楽しみや気分転換に繋がるよう、日常的に外へ出る機会を設けている。また、利用者のその日の状態や気分に合わせて支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は、身体拘束に関する内部・外部研修等を通し、その内容や弊害について理解しており、身体拘束を行わないケアを実践している。また、身体拘束に関するマニュアルを整備しており、理由や方法、期間や経過観察等記録を残す体制が出来ている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は、日中施錠しておらず、自由に出入りができるようになっている。また、居室には鍵が無く、開放的である。また、職員の目配り気配りが行き届いており、外出傾向のある利用者には職員が付き添っているほか、やむを得ず施錠する場合は、家族等へ説明を行い同意を得ている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間を想定し、消防署の協力を得ながら利用者と職員と一緒に定期的な避難訓練を行っている。また、災害時に備え、運営推進会議で情報を共有し、地域住民から理解や協力が得られるよう働き掛けている。さらに、食料や飲料水を準備しており、定期的に補充している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成しており、栄養バランスやカロリーに配慮し、さらに季節の野菜や果物の説明や効能を記入するなどの工夫を行っている。職員は利用者一人ひとりの食事や水分摂取量を記録しており、必要により捕食を提供するなどの対応を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防・早期発見対応マニュアルを作成し、必要に応じて法人本部を中心に見直している。また、感染症予防の掲示物を作成し、家族に配布しているほか、玄関に消毒液を準備したり、感染症予防のチラシを掲示するなど、来訪者にも周知と協力を呼び掛けている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には白いソファが置かれ、広い窓や天窓からは日差しが注ぎ明るい。また、壁には職員手作りの、カレンダーが飾られている。玄関や居間・廊下等は段差がなく、テーブルは車椅子使用となっており、利用者が居心地よく生活できるよう、配慮している。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム備え付けベットやソファ、カーテンなど、利用者の意向に沿って配置している。また、ぬいぐるみ等の小物やタンス、趣味の手芸道具等、入居前からの愛用品を持ち込み、その人らしい居室となっている。		

※ は、重点項目。